

Global Digital Transformation Partner

2024年3月期 第1四半期決算 補足説明資料



2023年7月31日

トランスコスモス株式会社

1. エグゼクティブサマリ
2. 連結損益計算書サマリ
3. 連結売上高の増減分析① セグメント別
4. 連結売上高の増減分析② サービス別
5. 連結売上高の増減分析③ 地域別
6. 連結営業利益の増減分析
7. 連結四半期業績の推移
8. 単体サービス 営業利益の増減分析
9. 親会社四半期純利益の増減分析
10. 連結貸借対照表の概要
11. 設備投資・減価償却・従業員数・サービス拠点
12. 1Q 活動トピックス

1. エグゼクティブサマリ

連結売上高
889億円
前年同期比 -4.6%

連結営業利益
22億円
前年同期比 -57億円

- コロナ関連以外のサービスは堅調な売上成長を継続するも、コロナ関連業務の反動減の影響などにより連結全体では減収
- セグメント別では、コロナ関連業務を除く単体サービス、国内・海外関係会社の受注は堅調に推移
- サービス別では、CXサービス、BPOサービスともに受注好調で、コロナ関連業務を除くとそれぞれ対前年5-7%成長
- 地域別では、中国は減収ながら、韓国は増収、ASEANはグローバル企業との取引拡大で最も高い成長率を示す
- 単体サービスの販管費も適正レベルを維持。ただし、単体サービスの売上の減少及び各セグメントにおける収益性の低下により連結全体で減益

2. 連結損益計算書サマリ

※ 各セグメント利益の売上比は、各セグメント売上高に対する比率として記載しています。



単位：億円(億円未満四捨五入)		2023年3月期 1Q		2024年3月期 1Q		増減	
		金額	売上比	金額	売上比	金額	増減率
売上高		933	100.0%	889	100.0%	-43	-4.6%
	単体サービス	636	68.2%	581	65.3%	-55	-8.7%
	国内関係会社	106	11.3%	108	12.1%	2	2.0%
	海外関係会社	221	23.7%	231	26.0%	10	4.6%
	セグメント間取引消去	-30	-3.2%	-30	-3.4%	-0	-0.8%
売上総利益		213	22.8%	160	18.0%	-53	-24.9%
販管費		133	14.3%	137	15.5%	4	3.1%
営業利益		79	8.5%	22	2.5%	-57	-72.0%
	単体サービス	62	9.8%	11	1.9%	-51	-82.1%
	国内関係会社	11	10.8%	7	6.7%	-4	-36.4%
	海外関係会社	6	2.6%	4	1.7%	-2	-31.4%
	セグメント間取引消去	0	-	0	-	-0	-81.8%
営業外損益		5	0.6%	10	1.1%	5	88.4%
経常利益		85	9.1%	32	3.6%	-52	-61.7%
特別損益		-1	-0.1%	0	0.1%	2	-
親会社株主に帰属する四半期純利益		52	5.5%	15	1.7%	-37	-71.5%

3. 連結売上高の増減分析① セグメント別

- 売上高 減少：-43億円 (-4.6%)

単体サービス

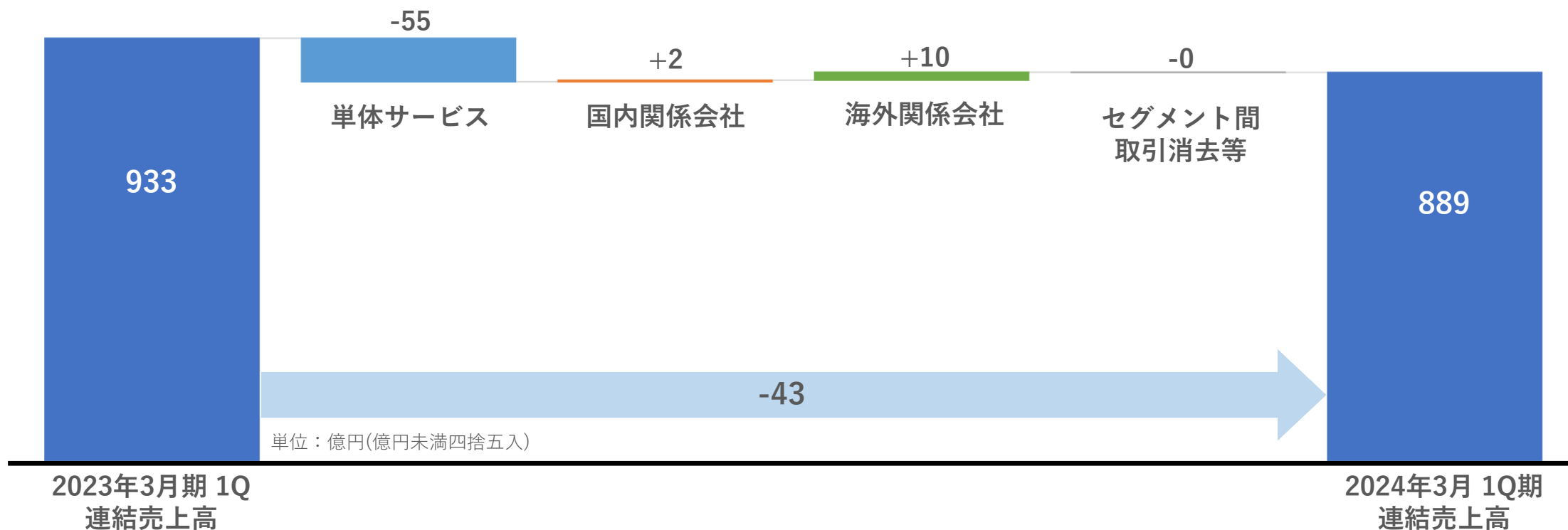
コロナ関連業務の反動減で減収、コロナ関連を除く既存業務は引き続き受注堅調

国内関係会社

一部の上場子会社は売上減少したものの、コンサルやBPOサービス関連の子会社の売上増加などで増収

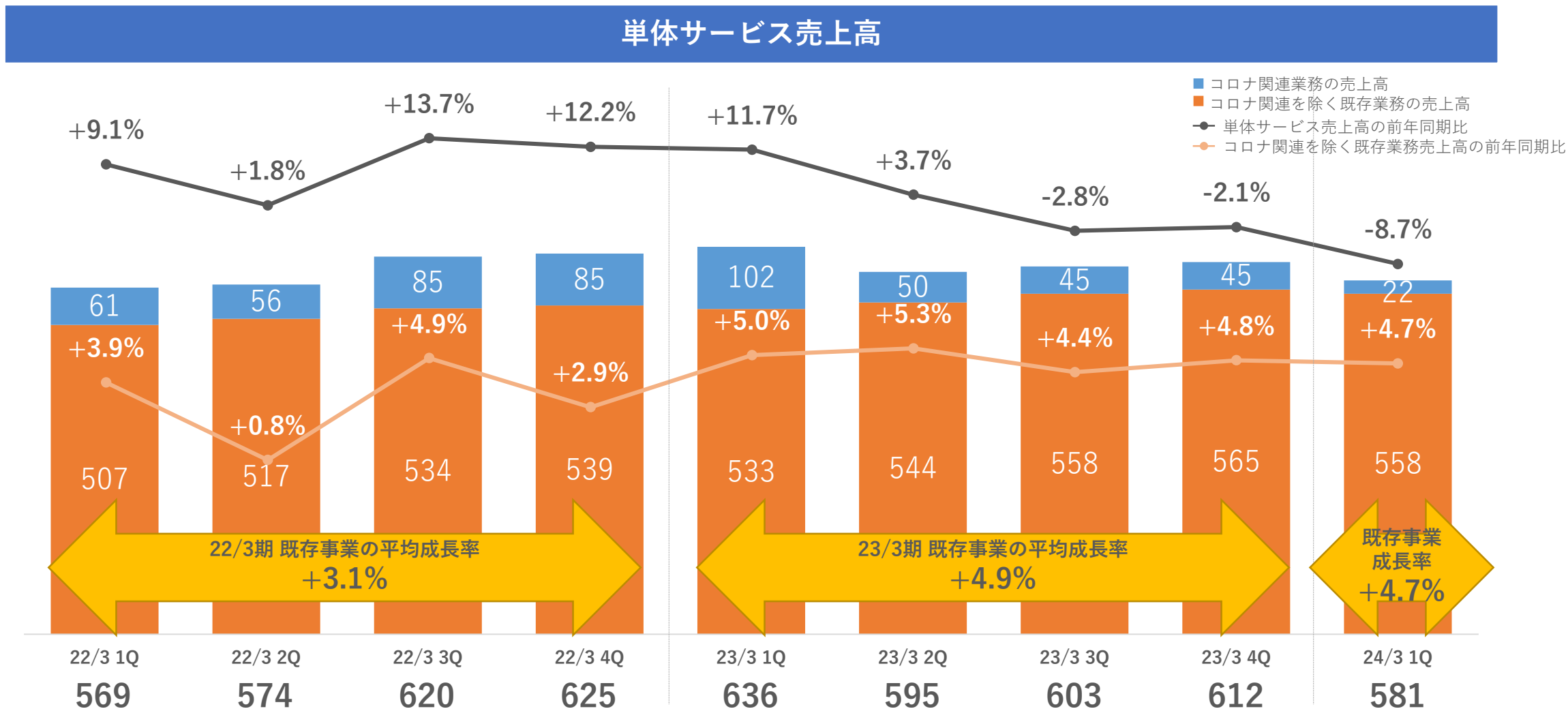
海外関係会社

韓国・ASEANの各子会社の売上増加で増収



ご参考：単体サービス コロナ関連業務・既存業務の推移

- コロナ関連業務は、社会ニーズの落ち着きとともに縮小傾向にあるが、コロナ関連を除く既存業務は、前期に引き続き、受注拡大ペースを維持



4. 連結売上高の増減分析② サービス別

※ 各サービス別売上高は、管理会計上の売上高構成比をベースに算出した数値です。また、セグメント間取引消去分は考慮していません。



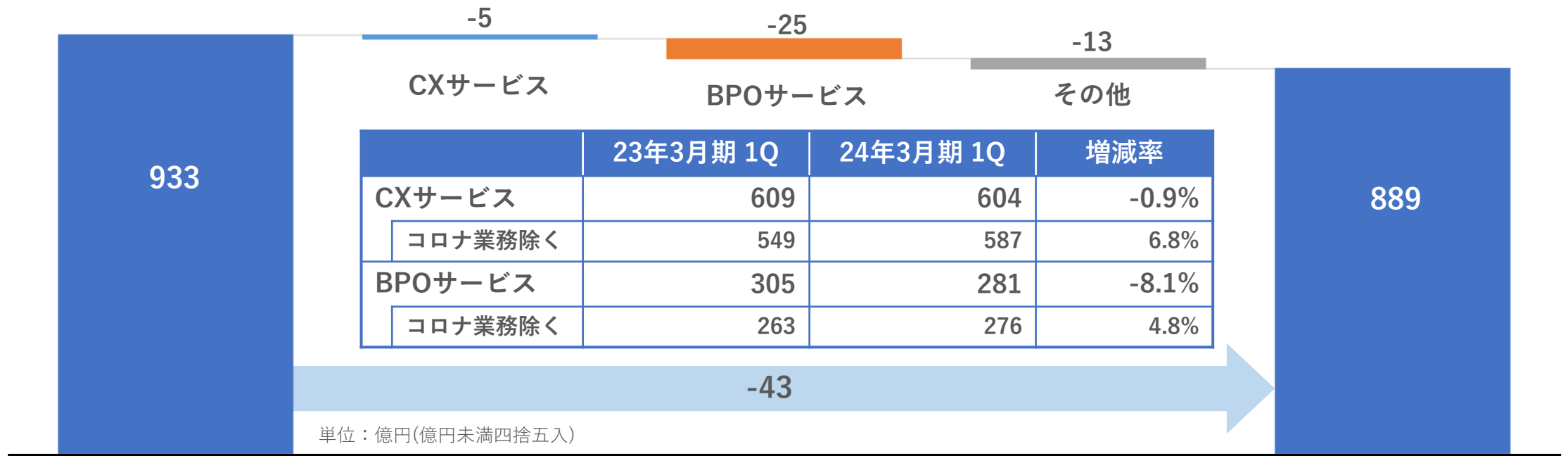
● 売上高 減少：-43億円 (-4.6%)

CXサービス

コロナ関連業務の反動減の影響で減収。一方、コロナ関連を除く既存業務は、コンタクトセンター、デジタルマーケティングの受注堅調で+6.8%の増収

BPOサービス

コロナ関連業務の反動減の影響で減収。一方、コロナ関連を除く既存業務は、設計開発支援、ITアウトソーシングなどの受注好調で+4.8%の増収



単位：億円(億円未満四捨五入)

2023年3月期 1Q
連結売上高

2024年3月 1Q期
連結売上高

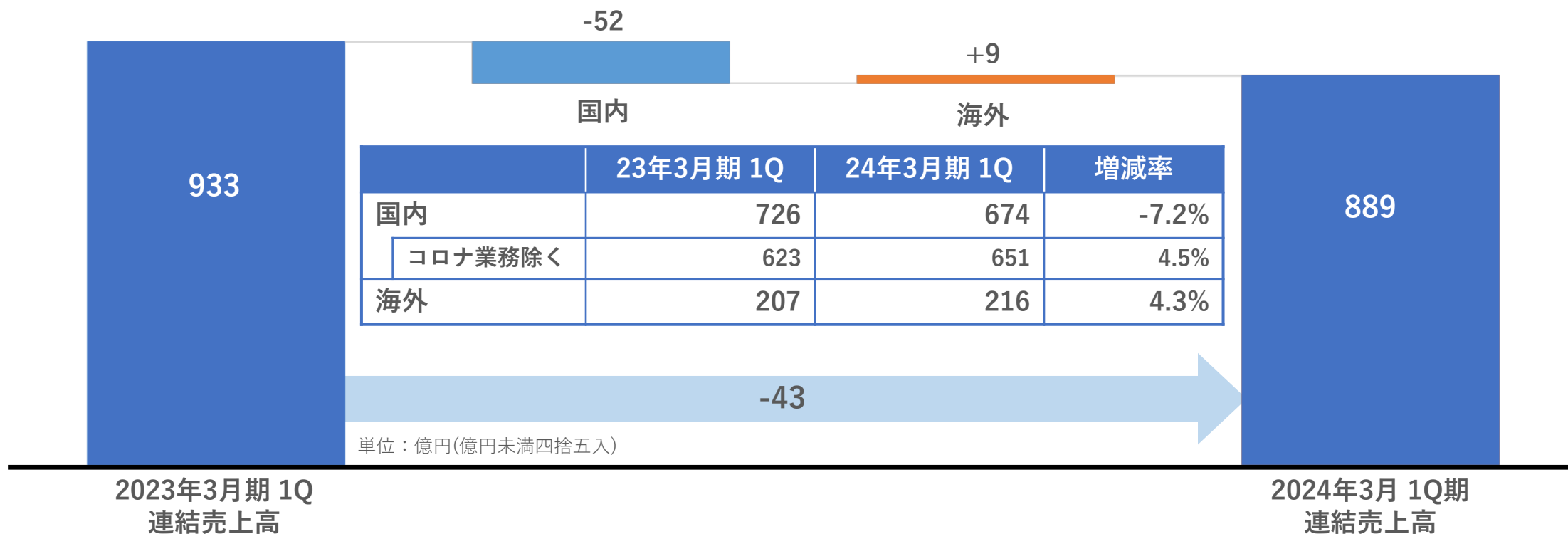
5. 連結売上高の増減分析③ 地域別

※ 海外売上高は、「海外関係会社」セグメントとは異なり、顧客の所在地を基礎とし国または地域に分類しています。



● 売上高 減少：-43億円 (-4.6%)

- 国内** コロナ関連業務の反動減の影響などで減収。一方、コロナ関連を除く既存業務は、CXサービス・BPOサービスともに受注増加で、+4.5%の増収
- 海外** 韓国、ASEANでCXサービス受注増などで増収



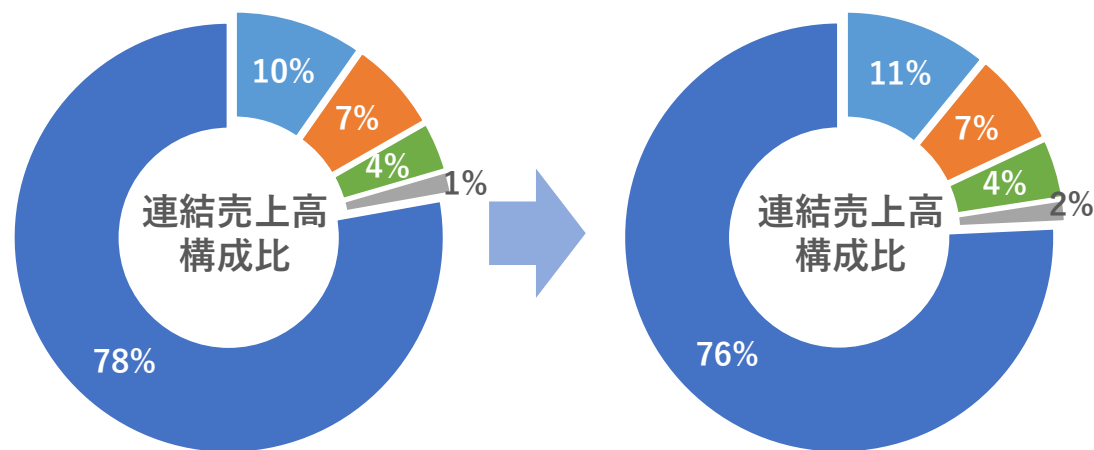
5. 連結売上高の増減分析③ 地域別

※ 海外売上高は、「海外関係会社」セグメントとは異なり、顧客の所在地を基礎とし国または地域に分類しています。



- 海外売上高は、216億円（前年同期比 +9億円、+4.3%）となり、海外売上高比率は24.3%
- 韓国の売上高は、97億となり、CXサービス受注増などで+6.7%の増収
- 中国の売上高は、63億となり、CXサービス受注減などで-2.7%の減収
- ASEANの売上高は、40億となり、CXサービスにおいてグローバル企業との取引拡大などで+14.8%の増収

地域別の売上高構成比



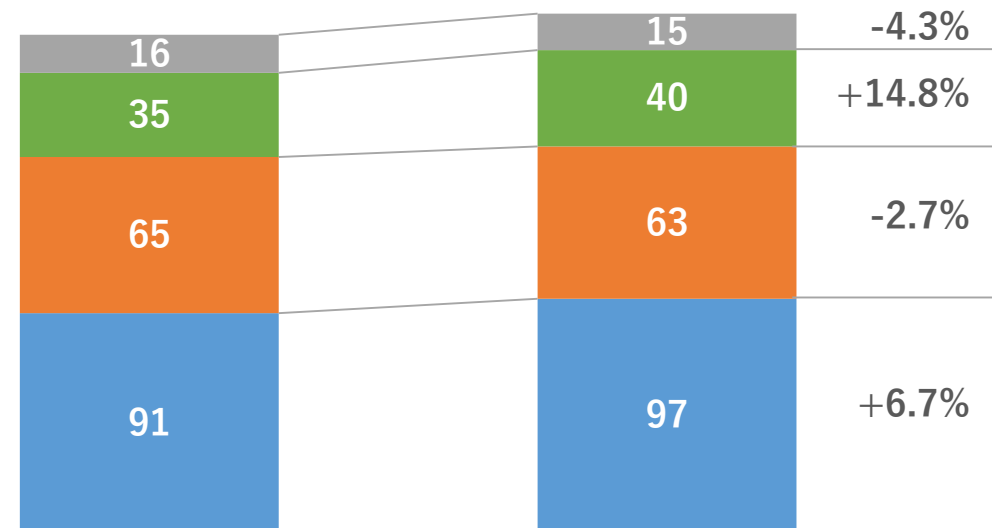
2023年3月期 1Q
海外売上高比率
22.2%

2024年3月期 1Q
海外売上高比率
24.3%

■ 日本 ■ 韓国 ■ 中国 ■ ASEAN ■ その他

海外国別売上高

単位：億円(億円未満四捨五入)



2023年3月期 1Q
海外売上高
207

2024年3月期 1Q
海外売上高
216

■ 韓国 ■ 中国 ■ ASEAN ■ その他

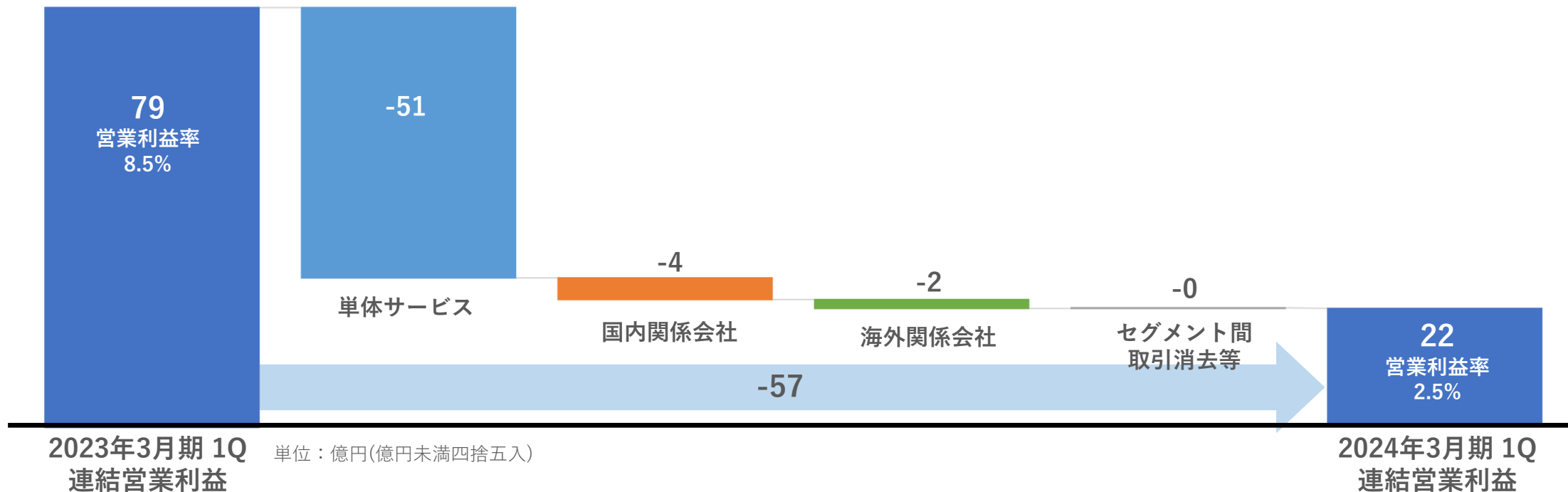
6. 連結営業利益の増減分析

- 営業利益 減少：-57億円 (-72.0%)

単体サービス 売上高の減少、総利益率の低下により減益

国内関係会社 上場子会社及びそのグループ会社の収益性が低下した影響などで減益

海外関係会社 韓国子会社において一部の高収益案件の終了、人件費上昇などの影響で減益



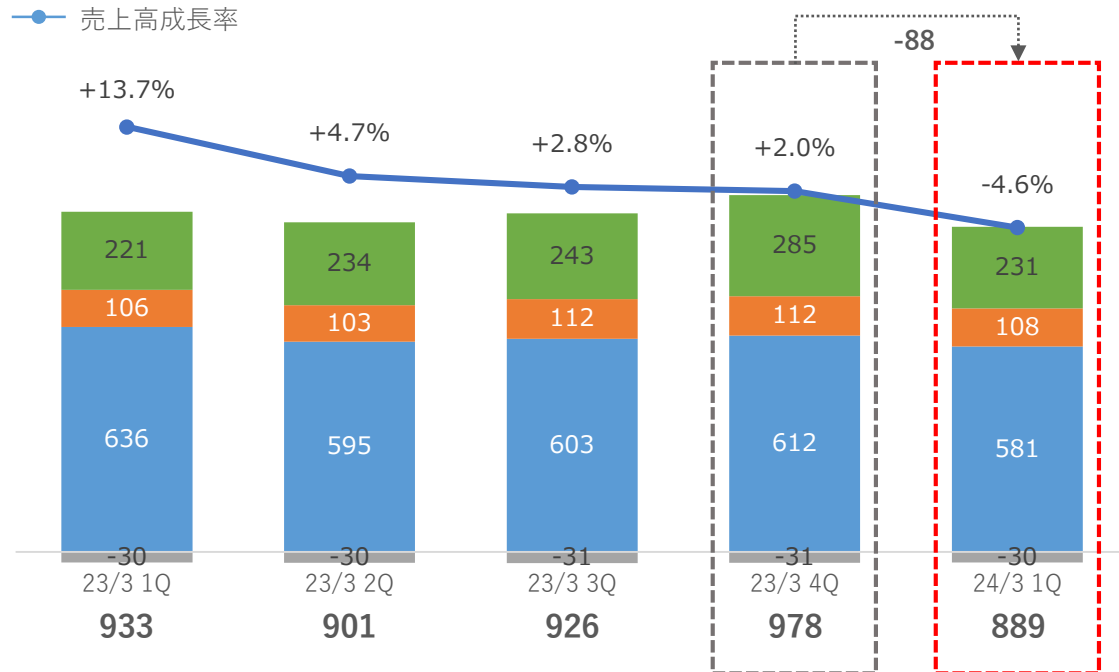
7. 連結四半期業績の推移

- 売上高 【前4Q比】単体サービスのコロナ関連業務の縮小、海外関係会社の季節性による影響などで-88億円の減収
- 営業利益 【前4Q比】単体サービスの利益減少、海外関係会社の季節性による影響などで-38億円の減益

連結売上高

単位：億円(億円未満四捨五入)

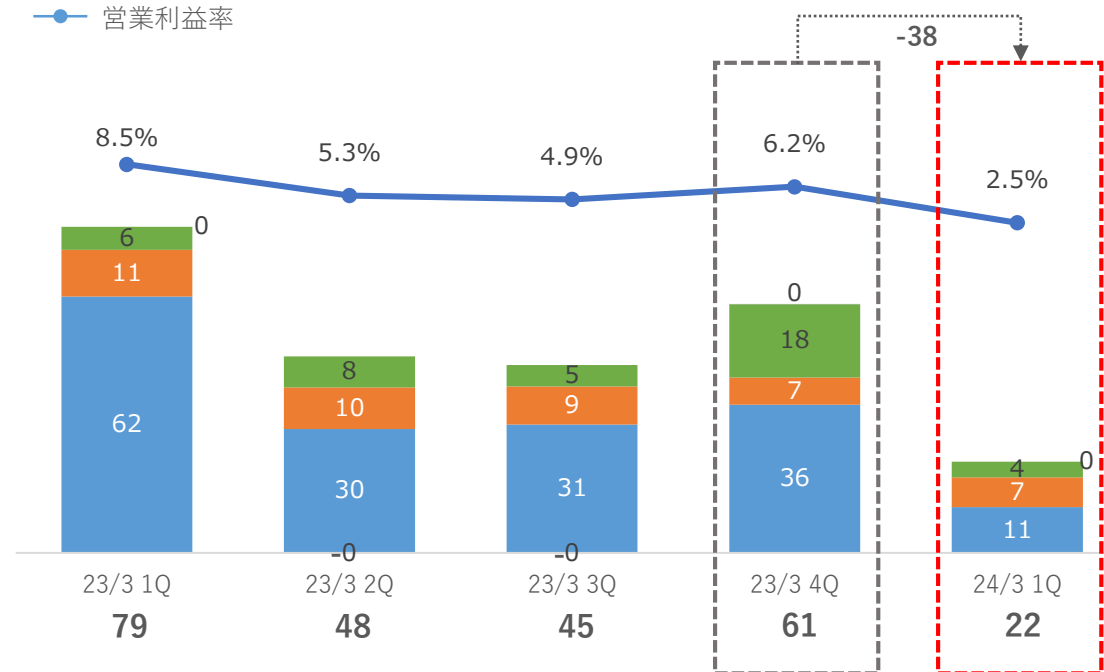
● 売上高成長率



連結営業利益

単位：億円(億円未満四捨五入)

● 営業利益率



■ 単体サービス ■ 国内関係会社 ■ 海外関係会社 ■ セグメント間消去等

8. 単体サービス 営業利益の増減分析

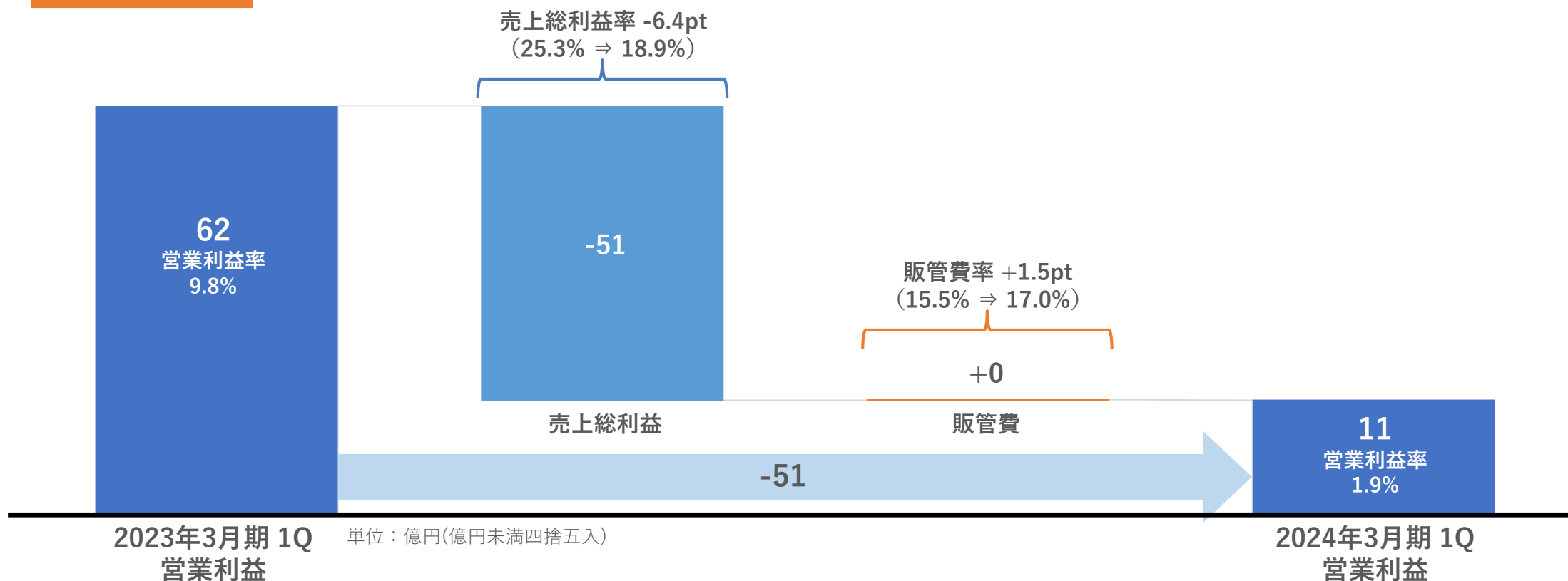
- 営業利益 減少：-51億円 (-82.1%)

売上総利益

コロナ関連業務の反動減で売上高が減少したことや、CXサービスで一部案件の立上げ・稼働安定化に向けた先行費用が発生した影響などで-51億円の減益となり、売上総利益率は6.4ポイント低下

販管費

適正なコストコントロールで前年同期と同水準を維持。販管費率は、売上高の減少に伴い1.5ポイント上昇



ご参考：過去6年間 単体サービス売上高・営業利益の推移

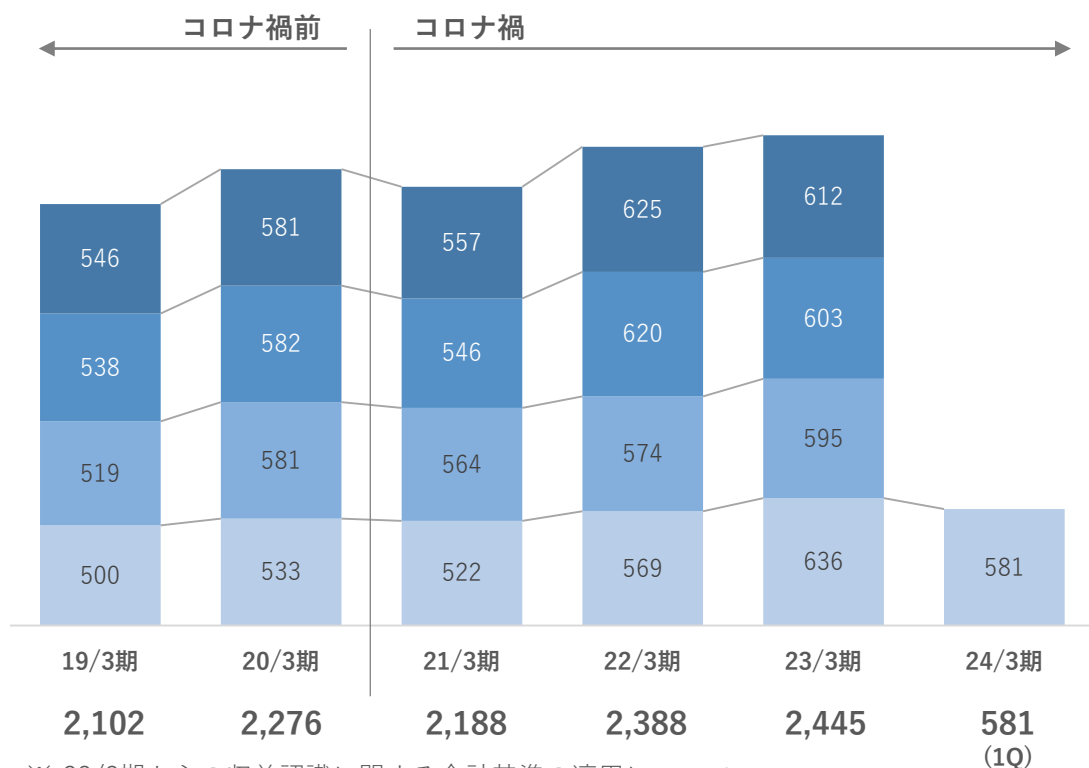


- 当期とコロナ禍前との比較では、売上高は順調に拡大、営業利益は弱含みだが増加

単体サービス売上高

単位：億円(億円未満四捨五入)

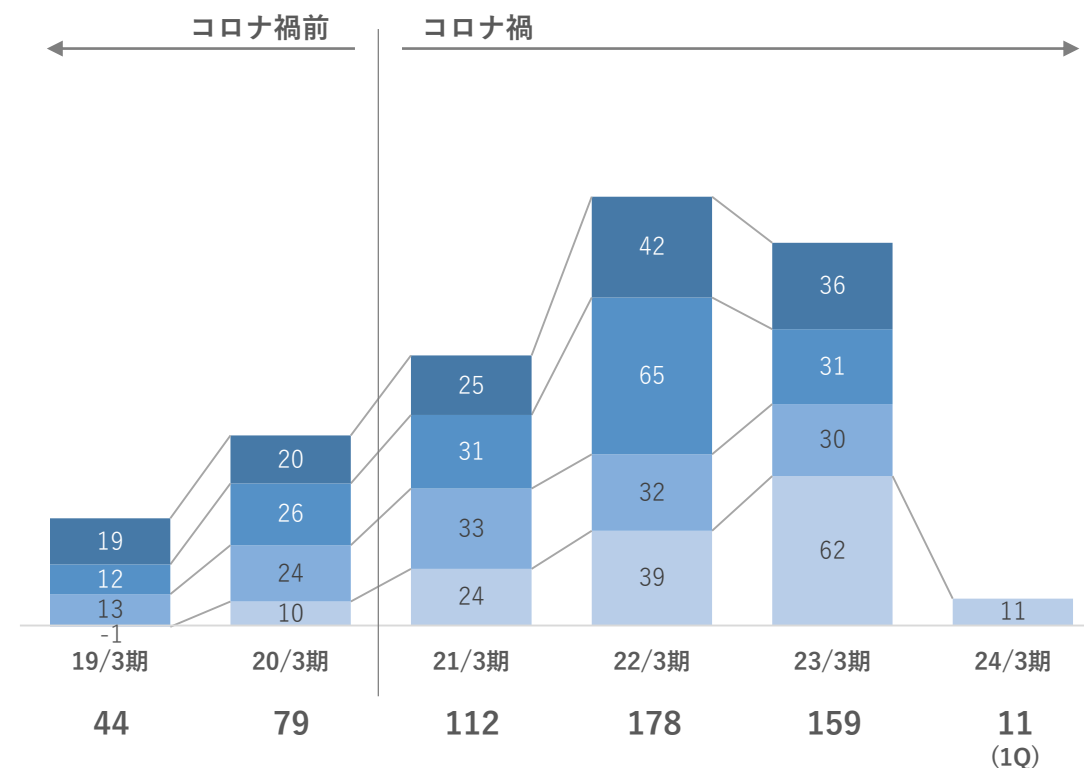
■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



単体サービス営業利益

単位：億円(億円未満四捨五入)

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q

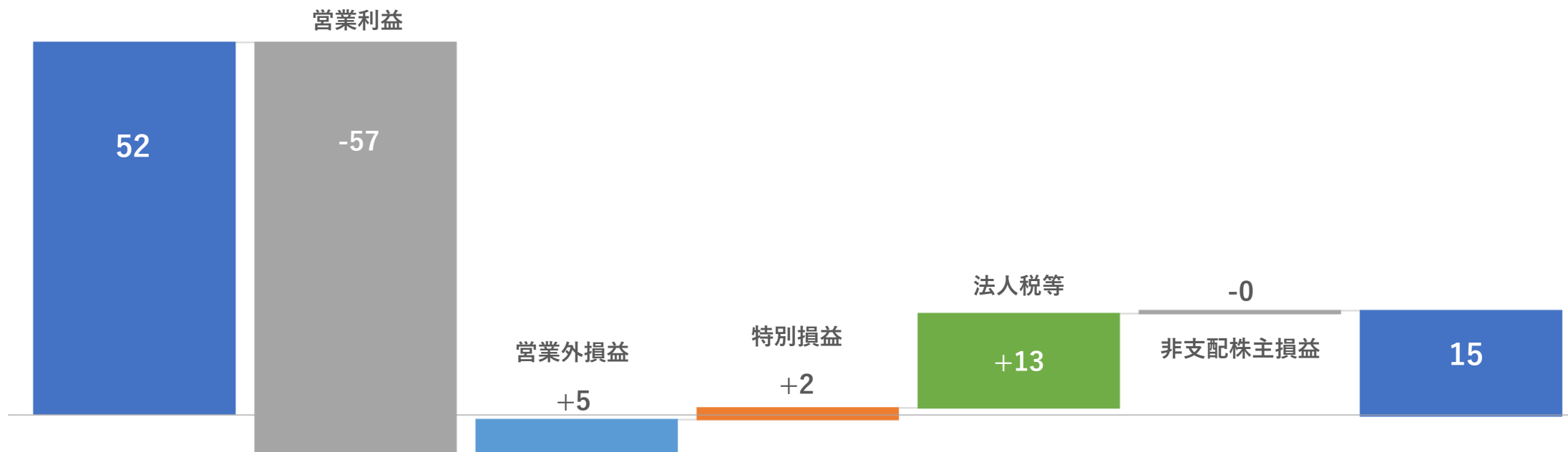


※ 22/3期からの収益認識に関する会計基準の適用について
 ・ 21/3期売上高の代理人取引は純額表示に組み替えています。
 ・ 20/3期以前の売上高については、上記組み替えは行っていません。

9. 親会社四半期純利益の増減分析

- 親会社四半期純利益 減少：-37億円（-71.5%）

営業外損益	為替差益の増加、持分法投資利益の計上（前年同期は持分法投資損失）などで+5億円の増加
特別損益	投資有価証券売却益を計上した影響などで+2億円の増加
法人税等	税金等調整前四半期純利益の減少などで-13億円の減少



2023年3月期 1Q 親会社四半期純利益
単位：億円(億円未満四捨五入)

2024年3月期 1Q 親会社四半期純利益

10. 連結貸借対照表の概要

- 流動資産：前期末の売上債権の回収や借入金で「現金及び預金」が増加
- 固定資産：保有上場株式の時価評価により「投資有価証券」が減少
- 負債：当社における「長期借入金」が増加
- 純資産：「利益剰余金」が減少

単位：億円(億円未満四捨五入)	2023年3月末	2023年6月末	増減額	
流動資産	1,354	1,387	33	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現預金+72 ・ 受取手形及び売掛金-77
固定資産	584	572	-13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 投資有価証券-11
資産合計	1,938	1,959	21	
流動負債	664	689	24	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未払法人税等-23 ・ 未払消費税等+11 ・ 賞与引当金+21
固定負債	150	186	35	
負債合計	815	874	60	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期借入金+40
純資産	1,124	1,085	-39	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利益剰余金-29 ・ その他の包括利益累計-10
負債・純資産合計	1,938	1,959	21	
現預金	512	584	72	
有利子負債	163	202	40	
Netキャッシュ*	349	381	32	

*Netキャッシュ=現預金-有利子負債

11. 設備投資・減価償却・従業員数・サービス拠点

● 設備投資額・減価償却費

単位：億円(億円未満四捨五入)	2023年3月期 1Q	2024年3月期 1Q	増減率
設備投資額	11	7	-36.4%
減価償却費	12	13	8.9%

- 設備投資額
主に単体での設備投資が減少
- 減価償却費
主に単体での過年度に実施したセンター増開設などの影響で増加

● 従業員数

	2023年3月末	2023年6月末	増減
連結従業員数	40,582	40,531	-51
(臨時従業員数)	29,709	29,665	-44
単体従業員数	16,791	17,387	596
(臨時従業員数)	22,179	21,864	-315

- 連結
一部国内・海外子会社で案件終了などに伴って従業員・臨時従業員数は減少
- 単体
新卒採用で従業員数が増加、コロナ関連業務の終了などに伴って臨時従業員数は減少

● サービス拠点

	2023年3月末	2023年6月末	増減
サービス拠点	170	171	1
(国内サービス拠点)	70	71	1
(海外サービス拠点)	100	100	0

- 国内
大阪にBPOセンターを新設

*サービス拠点は、自社サービス拠点のほかに本部・支社・営業所・関係会社・パートナー等の拠点も含む

12. 1Q 活動トピックス：国内

サービスの開発・強化

【TCI-DX for Support】

- VOCを活用した様々なチャネルのログデータの分析・問題特定手法を開発し特許を申請中
- コンタクトセンター、チャット、チャットボット、サポートコンテンツ、ソーシャルのVOCを連携させたフルサービスの提供社数は10社となり、さらに今後3年で提供社数を100社まで拡大することを目標にサービス提案体制を強化
- 法人向けメタバース活用を支援する「メタバースWebコンテンツ」を公開
- TCI-DXサービスの進化へ向けてChatGPTを活用したサービスを開発。当社は、国内外7,000席規模のチャットオペレーターとチャットボットを連携したノンボイスサポート体制を確立しており、有人チャット/チャットボットのアセスメントサービスによるユーザーの自己解決率向上サービスでの高い実績・成果を上げております。これら、当社独自のノウハウとChatGPTなど生成AI技術をかけあわせ、より付加価値の高いサービスの展開に向けて強化推進

【BPOサービス関連】

- サポートデスク支援ツール「Quick Support Cloud」に生成AI（ジェネレーティブAI）を活用した「Quick Support Cloud with GAI」のサービス提供を開始
- 人的資本情報開示の義務化を支援する「HCMアナリティクスプラットフォーム」サービスの提供を開始

サービス体制の強化（アライアンス・パートナー・M&A・拠点など）

- BPO x DXサービスの拡充に向け最先端AI技術の開発・提供を行うコージェンラボと資本・業務提携
- ダッソー・システムズと新たなアライアンスを締結し、ソリューションの適用範囲を拡大
- Adalo, Inc.と協業し、ノーコードツール活用の課題をすべて解決する「Adalo Full Support Package」の提供を開始
- ITに関する要件定義、開発、運用保守、データ活用までワンストップで提供するBPOセンター大阪御堂筋を開設

サービスの提供実績、その他企業活動など

- ニッセンに“5A診断”サービスを提供
- 宮崎県LINE公式アカウントにおけるチャットbotの導入を支援
- トランスコスモスとブレインバース、共同でバーチャル空間と接客サービスをブレインスリープに提供
- トランスコスモスとクオン、メタバースのファンコミュニティを開設
- ひとり親の就労を支援する「ひろがれ未来塾」に協力

12. 1Q 活動トピックス：海外

サービス体制の強化（アライアンス・パートナー・M&A・拠点など）

- フィリピンで多言語人材採用のためChatGPTの翻訳機能を活用したツールを開発
- トランスコスモスと中国で最先端の技術を用いたソフトウェア開発を行うTINKERS、資本業務提携を締結

受賞・認定・その他企業活動など

- トランスコスモスコリア、公益社団法人「セーブ・ザ・チルドレン」と後援協約を締結
- トランスコスモスBPOチャイナ、ISO 9001取得
- トランスコスモスチャイナ、2022 Editors' Choice Awardにおいて「コンタクトセンター デジタルインテリジェンスソリューション賞」を受賞
- トランスコスモスチャイナ、運営するコンタクトセンターの2プロジェクトにおいてCOPC認証を取得

- 本資料に含まれる将来の予測に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本経済、株式市場の動向や情報サービス業界の動向、新たなサービスや技術の進展により変動することがあり得ます。従って当社として、その確実性を保証するものではありません。
- 本資料では、金額は億円未満を四捨五入、%は小数点以下第2位を四捨五入で、それぞれ表記しています。



IRに関するお問い合わせ

トランスコスモス株式会社

本社管理統括 IR推進部

E-Mail. ir_info@trans-cosmos.co.jp